Pichari ～ピチャリ～
七飯町歴史館だより
第110号

ななえ古写真物語

VOL.110

今はなき養狐場

大沼養狐場発行の絵葉書より
大正10年頃か
大沼地区

大正7年、日魯漁業株式会社がカナダから銀黒狐７つがい、ミンク３つがい、フィッチャー２つがいを輸入して飼育。大沼湖畔の一画に養狐場を開設した。のち大正１０年にはこの事業を本格化するため、大沼養狐株式会社が設立され、大規模な養狐場へと変貌をとげる。

社長の松下熊槌は、「北海道では、野生の熊の如きものは次第に減少しきて、毛皮を扱う者から言うと、商売が立っていかない位である。しかるに毛皮の需要は減退することがないから、将来どうしても毛皮獣を人口で育てていかなければならぬので、養狐の如きはこの意味からいっても、最も必要且つ有望な事業である」とし、資本金２５万円を投じ、もともと飼育していた銀黒狐のほか、三毛・十字狐・銀狐など、約４００頭を飼育していたという。

当時の大沼では、この養狐場が観光名所として知られるようになり、大正11年７月には東宮殿下（後の昭和天皇）も行啓されるほど、その名が知られていた。

しかし、太平洋戦争の最中となる昭和15年ごろには、会社が解散となり個人事業として引き継がれたようだが、いつの間にか立ち消えたという。

上の写真は、大沼養狐株式会社によって発行された絵葉書の中の一枚である。事業を拡大した後は、大沼市街地でミンクなどを飼育したり、赤井川地区や西大沼地区にも飼育場を設けたりと、かなり広範囲に展開していたというが、飼育場となるこの写真を見ても、大がかりなものだったことがうかがえる。

昭和９年に大沼尋常高等小学校によって発行された「大沼郷土誌」の中にも、大沼養狐場見学記として、その飼育状況が詳しく記されている。「…飼育している狐は、混食動物とも言われていると思う。肉魚牛乳身胴鰊の外に野菜や米、麦なども与えるという･･･」とか、「親狐の居る飼育場を案内して貰う。高さ十尺くらいの金網で囲った三間に四間位の柵と、二間に三間位の柵とが並び、それが向かい合ってずらりと並んでいる。広い柵は牝。狭い方は牡柵だという…」など、上の写真を具体的に説明するに足る記録である。

現在、大沼養狐場の面影はほとんど残っていない。あたかも神経の鋭敏な狐のごとく、森の中へ颯爽と消え去り、残された写真がその姿を伝えている。できるならば、詳しい記憶をお持ちの方に往時の姿をご教授願いたい。

日進月報 ＜2017. 1＞

11日

夜の博物館第２夜は、開催中の企画展で、「考古と美術」と題し、デザインから見る土器の文様の美しさや形などに焦点を充てて行いました。一見かけ離れていると思われる「考古」と「デザイン」ですが、細部に宿る感性には、緻密な仕事と遊び心を取り入れた人間らしさを感じます。受講された皆さんからは、特色ある土器の用途や町内から出土した土器について等様々な質問があがりました。対話をし、各々が自由に考えた意見を交換する、夜の博物館の意義を改めて感じた一夜でした。

27日

冬空の下、凧上げに挑戦したのは、ジュニア探検クラブの子供達。「凧」についてのレクチャーを受け、描く絵柄を決めたら、制作開始。予定より時間がかかりましたが、思い思いの絵柄は個性が光っていました。「凧」に「タコ」の絵を描いていた子、トリ、月、昆虫など。風が強い日でしたが、一度風に乗ると、どんどん高く揚がっていきます。レンズ越しに見る子供達の笑顔がとても印象的でした。

31日

「冬の星空観察会」を行いました。一年の内で最もきれいな星空が見られるはずでしたが、当日はその思いが届かず、観察できたのは、月と金星でした。昔から親しみがある金星。清少納言が書いた『枕草子』にも出てきます。一方月は更に身近な存在。毎夜姿を変え、再生していく姿を見るのに飽きることはありません。当日、寒い中お集まり頂いた皆さん、望遠鏡から覗く空はいかがでしたか？晴れていれば、冬の星座の代表「オリオン座」が見られました。一等星が７個もある冬の星空。お天気を味方につけ、観察してみて下さい。

編集後記　～tawagoto～

この間、事務室の窓を開けたら、サッシの隙間で黒く小さなテントウムシがゆっくりと動いていた。外の寒さから考えると、最近成虫になったのではなく、越冬していたのだろう。

啓蟄にはまだ早い季節、一匹静かに春の訪れを待つその姿に、いたく感動してしまった。今はまだ寒いが、確実に暖かくなっていく日々を乗り切り、再び空をはばたく時がくるのだろうなと思い。つぶさないよう、そっと窓を閉めた。（やまだひさし）

3月の予定

1	水	夜の博物館
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	冬の探鳥会
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	ジュニア探検クラブ
19	日	
20	月	春分の日
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

※３月の休館日はありません

ヒヤシンス

昨年11月から水耕栽培していたヒヤシンスの花が咲きました。芳しい香りが春を運んできます。

Pichari ～ピチャリ～
第１１０号
平成２９年２月２０日発行

七飯町歴史館
〒041-1193　亀田郡七飯町本町６丁目１－３
電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182
E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp